

≪ 判定の基準 ≫ A = 肯定率80%以上 B = 肯定率60%以上80%未満 C = 肯定率40%以上60%未満 D = 肯定率40%未満

評価項目	対象	評価指標	よくあてはまる	大体あてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	回答数	【参考】 評価平均	肯定率 (わからない・無回答を除く)	判定 (わからない・無回答を除く)	学校による考察
			4	3	2	1					
重点目標 (学習指導)について	生徒1	私は、『校訓「強くあれ」のもと、成長し続けるたくましい生徒』をめざして努力している。	67人 28.6%	145人 62.0%	22人 9.4%	0人 0.0%	234人	3.19	91%	A	1学期に引き続き、生徒一人一人が授業に一生懸命取り組んでいる。特に、協働学習では意欲的な姿勢が育ってきており、そのことが「授業が分かりやすく、楽しい」と感じられることにつながっていると考察できる。ただ、生徒への質問に対して、6項目中4項目で肯定率が下がっており、特に一人一人に応じたきめ細かな学習指導の項目では下がり率が高い。各学年とも学習内容が1学期よりも難しくなっており、理解できていない生徒も多くなっていることが考えられる。一人一人に全て応じるのは難しいが、宿題の難度やプリント等での補充、学習相談の時間の設定、タブレットを使用した基礎学習の積み重ねなど、全教職員をあげて対策を考え実行していくことが急務である。
	生徒2	宿題や予習・復習など家庭学習に計画的に取り組んでいる。	66人 28.4%	121人 52.2%	45人 19.4%	0人 0.0%	232人	3.09	81%	A	
	生徒3	授業は分かりやすく、充実して楽しい。	54人 22.6%	165人 69.0%	20人 8.4%	0人 0.0%	239人	3.14	92%	A	
	生徒4	授業はペアやグループ活動など、級友と協力して学習する活動が取り入れられている。	125人 52.1%	109人 45.4%	6人 2.5%	0人 0.0%	240人	3.50	98%	A	
	生徒5	授業では、一人一人に応じたきめ細かな学習指導が行われている。	34人 14.5%	151人 64.5%	49人 20.9%	0人 0.0%	234人	2.94	79%	B	
	生徒6	将来の生き方を考え、進路を選択していくために、体験活動の実施や進路に関する情報提供が適切に行われている。	83人 35.0%	133人 56.1%	21人 8.9%	0人 0.0%	237人	3.26	91%	A	
	保護者1	家庭では子どもが、宿題や予習・復習など、家庭学習をするように努めている。	18人 18.9%	60人 63.2%	17人 17.9%	0人 0.0%	95人	3.01	82%	A	
	保護者2	学校は、工夫して分かりやすい授業づくりに努めている。(参観日やお子さんの話などから)	13人 13.3%	74人 75.5%	11人 11.2%	0人 0.0%	98人	3.02	89%	A	
	保護者3	学校は一人一人に応じた学習指導に努めている。(参観日やお子さんの話などから)	10人 10.6%	56人 59.6%	28人 29.8%	0人 0.0%	94人	2.81	70%	B	
	保護者4	学校は、職業や高校など、進路についての適切な指導や情報提供をしている。	12人 12.8%	60人 63.8%	22人 23.4%	0人 0.0%	94人	2.89	77%	B	
	教職員1	基礎学力、学習習慣の確立に努めた。	2人 9%	20人 91%	0人 0%	0人 0%	22人	3.09	100%	A	
	教職員2	学ぶ意欲を引き出す教材研究や、ICT機器や視聴覚機器の効果的な活用に努めた。	5人 23%	16人 73%	1人 5%	0人 0%	22人	3.18	95%	A	
	教職員3	ペア学習やグループでの話し合い活動など、協働学習の場面を設定した。	11人 50%	11人 50%	0人 0%	0人 0%	22人	3.50	100%	A	
	教職員4	適切な学習状況の評価の工夫をし、個別指導に生かすなど、改善を行った。	3人 14%	19人 86%	人 0%	0人 0%	22人	3.14	100%	A	
	教職員5	自分自身を見つめ、自らの意志と責任で進路指導選択ができる生徒の育成に努めた。	4人 18%	16人 73%	2人 9%	0人 0%	22人	3.09	91%	A	

「令和6年度学校評価」結果報告

(その2)

松前町立岡田中学校

評価項目	対象	評価指標	よくあてはまる	大体あてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	回答数	【参考】 評価平均	肯定率 (わからない・無回答を除く)	判定 (わからない・無回答を除く)	学校による考察
			4	3	2	1					
重点目標 (心の教育)について	生徒7	道徳科の授業を通して自分の生き方を見つめ直すことができました。	99人 42.1%	116人 49.4%	20人 8.5%	0人 0.0%	235人	3.34	91%	A	学級担任を中心とした、道徳教育の効果が現れ始めていると考える。道徳科の授業だけでなく、日頃の朝の会・終わりの会、休み時間、学校行事や生徒指導など、様々な場面で生徒との関わりを続けてきた結果だと考察する。清掃活動や校外のボランティア活動ではB評価となっており、清掃活動中に私語が目立ったり、ボランティア活動の参加人数が少なかったりと課題がある。なぜ清掃を無言とする必要があるのか、ボランティア活動の意義は何かなど、その都度学級で生徒に話し、生徒の道徳的実践力を高めていきたい。
	生徒8	いろいろな場面で、思いやりや支え合う気持ちをもって学校生活を送ることができた。	116人 48.5%	116人 48.5%	7人 2.9%	0人 0.0%	239人	3.46	97%	A	
	生徒9	清掃活動や校内外のボランティア活動に積極的に参加できた。	92人 39.1%	94人 40.0%	49人 20.9%	0人 0.0%	235人	3.18	79%	B	
	保護者5	子どもの学級にはまとまりがあり、一人一人を支え合う雰囲気がつくられている。	11人 12.1%	65人 71.4%	15人 16.5%	0人 0.0%	91人	2.96	84%	A	
	教職員6	道徳の時間の確保と指導の工夫・充実に努めた。	1人 5.0%	17人 85.0%	2人 10.0%	0人 0.0%	20人	2.95	90%	A	
	教職員7	自らの良さを認め、共に高め合う生徒の育成に努めた。	4人 18.2%	16人 72.7%	2人 9.1%	0人 0.0%	22人	3.09	91%	A	
	教職員8	清掃活動や校内外におけるボランティア活動の推進に力を入れている。	3人 15.8%	14人 73.7%	2人 10.5%	0人 0.0%	19人	3.05	89%	A	
重点目標 (生徒指導)について	生徒10	悩みや心配なことがあれば、日記や休み時間・放課後などで相談できる先生がいる。	67人 31.3%	102人 47.7%	45人 21.0%	0人 0.0%	214人	3.10	79%	B	アンケートの結果より、生徒にとって相談できる先生がいると感じる割合が低い。「生活アンケート」を毎月実施し、教育相談を行っているが、それ以外の時間も必要であると感じた。教師側がより積極的に生徒と日常的に会話をを行い、生徒と教師間の信頼関係を構築していくことが大切だと考える。日々のコミュニケーションを大切にしていきたい。また、いじめ問題に対して早急に解決をすることはもちろん、早期発見できるような生徒や保護者からの情報だけでなく、日常生活の様子を見たり、会話をしたりすることで積極的に取り組むことを心掛けたい。そのために、全教職員が協力して見守りを行っていきたい。ハート何でも相談員やスクールカウンセラーの先生とも連携を密に取り、保護者、生徒一人一人に寄り添った適切な対応を心掛けたい。
	生徒11	先生は、生徒の悩みや相談事に親身に対応している。	91人 38.7%	119人 50.6%	25人 10.6%	0人 0.0%	235人	3.28	89%	A	
	生徒12	自分には「よいところ」があると思う。	86人 38%	111人 49%	29人 13%	0人 0.0%	226人	3.25	87%	A	
	生徒15	毎朝朝食をとる、服装や身だしなみを整える、時間を守るなど基本的な生活習慣が身に付いている。	136人 56.7%	93人 38.8%	11人 4.6%	0人 0.0%	240人	3.52	95%	A	
	保護者6	学校は、日記指導や教育相談等を通して、生徒の悩みや問題の把握に努めている。	13人 13.8%	58人 61.7%	23人 24.5%	0人 0.0%	94人	2.89	76%	B	
	保護者7	学校は、いじめ問題の早期発見・解決に積極的に取り組んでいる。	11人 12.1%	57人 62.6%	23人 25.3%	0人 0.0%	91人	2.87	75%	B	
	保護者10	学校は、ルールやマナーなど、社会に適用する指導をしている。(身だしなみなど)	21人 21.4%	72人 73.5%	5人 5.1%	0人 0.0%	98人	3.16	95%	A	
	教職員9	日記指導や教育相談等を通して、生徒の悩みや問題を把握できた。	3人 16%	15人 79%	1人 5%	0人 0%	19人	3.11	95%	A	
	教職員10	いじめ・非行問題・不登校など生徒指導上の問題に対して適切に対応した。	6人 29%	14人 67%	1人 5%	0人 0%	21人	3.24	95%	A	
	教職員11	服装や身だしなみを整える、時間を守ることなど基本的な生活習慣の励行に努めた。	8人 36%	13人 59%	1人 5%	0人 0%	22人	3.32	95%	A	
	教職員12	人権・同和教育の視点に立って望ましい仲間意識を育てている。	6人 29%	15人 71%	0人 0.0%	0人 0.0%	21人	3.29	100%	A	

「令和6年度学校評価」結果報告

(その3)

松前町立岡田中学校

評価項目	対象	評価指標	よくあてはまる	大体あてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	回答数	【参考】 評価平均	肯定率 (わからない・無回答を除く)	判定 (わからない・無回答を除く)	学校による考察
			4	3	2	1					
重点目標 (健康安全・生徒活動)	生徒13	交通安全や防災、健康的な生活について考える機会がある。	75人	124人	34人	0人	233人	3.18	85%	A	石けんでの手洗い、換気、咳エチケットなど、自分の健康は自分で守るという態度が身に付くよう指導を行っているが、新型コロナウイルス感染症が5類に移行から約1年経ち、「慣れ」が生じてきている。保健日よりなどで時期に応じた啓発を行い、かぜ症状のある場合は早めに休養するなど、蔓延防止に努める。 部活動について体力や礼儀を身に付けるとともに、互いに支え合うなどの望ましい人間関係の育成を心掛けている。また、休養日を適切に設定しながら、充実感と達成感のある結果を求め練習に励んでいる。 また、積極的に学校行事や生徒会活動に参加している生徒が多い。生徒が積極的に参加したいと思うような工夫をするとともに、感動を呼ぶ行事が行われるように今後も内容の充実に向けていきたい。
			32.2%	53.2%	14.6%	0.0%					
	生徒14	手洗い、うがい、必要に応じたマスクの着用など、感染症対策をしっかりと行った。	142人	89人	9人	0人	240人	3.55	96%	A	
			59.2%	37.1%	3.8%	0.0%					
	生徒16	部活動(クラブ活動)への参加を通して体力の向上や礼儀を身に付けることができた。	144人	76人	14人	0人	234人	3.56	94%	A	
			61.5%	32.5%	6.0%	0.0%					
	生徒17	部活動の休養日は適切に確保されている。	139人	77人	13人	0人	229人	3.55	94%	A	
			60.7%	33.6%	5.7%	0.0%					
	生徒18	学校行事や生徒会活動に積極的に参加し、自分の存在感や成就感を得ることができた。	88人	120人	27人	0人	235人	3.26	89%	A	
			37.4%	51.1%	11.5%	0.0%					
	保護者8	学校は、子どもの安全や健康によく配慮し、指導している。	18人	72人	7人	0人	97人	3.11	93%	A	
			18.6%	74.2%	7.2%	0.0%					
	保護者9	学校は、様々な感染症の予防・対応に配慮している。	17人	77人	4人	0人	98人	3.13	96%	A	
			17.3%	78.6%	4.1%	0.0%					
	保護者11	学校は、部活動を通して気力・体力と礼儀を高める指導をしている。	22人	62人	12人	0人	96人	3.10	88%	A	
			22.9%	64.6%	12.5%	0.0%					
保護者12	部活動の休養日は適切である。	30人	57人	7人	0人	94人	3.24	93%	A		
		31.9%	60.6%	7.4%	0.0%						
保護者13	子どもは、学級活動や生徒会活動、各種学校行事に熱心に取り組んでいる。	32人	58人	7人	0人	97人	3.26	93%	A		
		33%	60%	7%	0%						
教職員13	交通安全、防災等の安全に関する指導に努めた。	8人	11人	2人	0人	21人	3.29	90%	A		
		38.1%	52.4%	9.5%	0.0%						
教職員14	食育の充実や感染症対策など健康的な生活習慣の形成に努めた。	7人	14人	0人	0人	21人	3.33	100%	A		
		33.3%	66.7%	0.0%	0.0%						
教職員15	部活動を通して気力・体力と礼儀を高める指導に努めた。	5人	13人	2人	0人	20人	3.15	90%	A		
		25.0%	65.0%	10.0%	0.0%						
教職員19	部活動の休養日が確保できている。	11人	11人	0人	0人	22人	3.50	100%	A		
		50.0%	50.0%	0.0%	0.0%						
教職員16	学級活動・生徒会活動の活性化に努めた。	7人	15人	0人	0人	22人	3.32	100%	A		
		31.8%	68.2%	0.0%	0.0%						

「令和6年度学校評価」結果報告

(その4)

松前町立岡田中学校

評価項目	対象	評価指標	よくあてはまる	大体あてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	回答数	【参考】 評価平均	肯定率 (わからない・無回答を除く)	判定 (わからない・無回答を除く)	学校による考察
			4	3	2	1					
地域・PTAとの連携	生徒 19	学校や地域でさわやかな挨拶ができています。	103人 43.5%	118人 49.8%	16人 6.8%	0人 0.0%	237人	3.37	93%	A	区長さんや民生児童委員さんからは、中学生の挨拶や地域行事への積極的な参加について好意的なご意見をいただいている。地域の方々との関わりや貢献については、子どもたちへの意識付けを行っていききたい。また、保護者や地域の皆さんに、学校の教育活動への理解や協力を促すために、学校に関する情報を、HPやメール、学校便りなどで積極的に発信していきたい。PTA活動については、一人一役や各専門部の活動が、保護者にとって負担感のないように、来年度に向けて見直しや精選を図っていききたい。
	生徒 20	地域の行事や活動に積極的に参加した。	124人 52.1%	88人 37.0%	26人 10.9%	0人 0.0%	238人	3.41	89%	A	
	保護者 14	子どもと一緒に食事をしたり、会話をしたりするように努めている。	54人 55.1%	42人 42.9%	2人 2.0%	0人 0.0%	98人	3.53	98%	A	
	保護者 15	子どもたちは、学校や地域の方々に積極的に挨拶をしている。	29人 29.9%	59人 60.8%	9人 9.3%	0人 0.0%	97人	3.21	91%	A	
	保護者 16	学校は、学級通信、学校だより、ホームページ、メール配信などを通して学校のことをよく伝えている。	31人 32.0%	61人 62.9%	5人 5.2%	0人 0.0%	97人	3.27	95%	A	
	保護者 17	子どもたちは地域行事に積極的に参加している。	33人 34.0%	49人 50.5%	15人 15.5%	0人 0.0%	97人	3.19	85%	A	
	保護者 18	参観日や一人一役など、PTA活動に協力している。	41人 41.8%	53人 54.1%	4人 4.1%	0人 0.0%	98人	3.38	96%	A	
管理運営	保護者 19	先生はゆとりをもって子どもたちと接する時間をつくれている。	14人 15.7%	47人 52.8%	28人 31.5%	0人 0.0%	89人	2.84	69%	B	保護者から「教員の長時間勤務等負担軽減は進んでいる。」の評価が低い。仕事の優先順位をつけ、業務を効率よく行う意識を高めていくことで、勤務に対する意識改革を図り、更に長時間勤務の解消に繋げていく必要がある。また、業務の効率化、行事の精選や縮小化を図りつつ、授業時間や生徒と向き合う時間の確保に努めたい。今すぐ劇的に、長時間勤務等負担軽減は難しいかもしれないが、現状に甘んじることなくできることから少しずつ実践していくことで、保護者の理解を得たい。
	保護者 20	教員の長時間勤務等負担軽減は進んでいる。	0人 0%	39人 43%	52人 57%	0人 0%	91人	2.43	43%	C	
	教職員 17	教職員の望ましい人間関係が保たれている。	8人 44.4%	10人 55.6%	0人 0.0%	0人 0.0%	18人	3.44	100%	A	
	教職員 18	サービスの遵守に努めている。	12人 54.5%	10人 45.5%	0人 0.0%	0人 0.0%	22人	3.55	100%	A	
	教職員 20	生徒と向き合う時間の確保は進んでいる。	8人 36.4%	13人 59.1%	1人 4.5%	0人 0.0%	22人	3.32	95%	A	
	教職員 21	ワークライフバランス（家庭と仕事の両立）は保たれている。	5人 26.3%	13人 68.4%	1人 5.3%	0人 0.0%	19人	3.21	95%	A	
	教職員 22	働き方改革の趣旨を踏まえ、業務改善に努めている。	3人 15.0%	16人 80.0%	1人 5.0%	0人 0.0%	20人	3.10	95%	A	

「令和6年度学校評価」結果報告

(その5)

松前町立岡田中学校

評価項目	対象	評価指標	よくあてはまる	大体あてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	回答数	【参考】 評価平均	肯定率 (わからない・無回答を除く)	判定 (わからない・無回答を除く)	記述
			4	3	2	1					
学校評価委員の 評価結果	1	学校は、子どもの安全や健康によく配慮し、指導している。	4人 80.0%	1人 20.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	5人	3.80	100%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の回答が少ないため、100%に近い回答を目指して呼び掛けてほしい。 ・タブレット端末を授業で活用しているのか。 ・生徒との日々のコミュニケーションを大切にして、相談しやすい雰囲気を作り、いじめの早期発見につなげてほしい。 ・「交通安全や防災について考える機会がある」にあまりあてはまらない生徒が34人いるが、地震もあり、全く考える機会がないことはないのではないか。 ・地域行事には、積極的に参加している。運営にも関わってもらっている。しかし、ボランティアに参加したと回答した生徒は少なく、地域行事とボランティアを分けて考えているのではないか。 ・長時間勤務等負担軽減のために、PTAにできることはないか、また、行事の精選や縮小化も大事だが生徒への教育的効果が低くなることはないようにしてほしい。
	2	学校は、部活動を通して気力・体力と礼儀を高める指導をしている。	3人 50.0%	3人 50.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	6人	3.50	100%	A	
	3	子どもは、各種学校行事に熱心に取り組んでいる。	3人 50.0%	3人 50.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	6人	3.50	100%	A	
	4	地域で子どもたちは、積極的にあいさつをしている。	1人 16.7%	5人 83.3%	0人 0.0%	0人 0.0%	6人	3.17	100%	A	
	5	学校は、学級通信、学校だより、ホームページ、メール配信などを通して学校のことをよく伝えている。	3人 60.0%	2人 40.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	5人	3.60	100%	A	
	6	子どもたちは地域行事に積極的に参加している。	1人 16.7%	4人 66.7%	1人 33.3%	0人 0.0%	6人	3.00	83%	A	
	7	学校は、地域からの要望や意見に対応している。	3人 50.0%	3人 50.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	6人	3.50	100%	A	
	8	教員の勤務時間について、もう少しゆとりが必要である。	5人 100.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	5人	4.00	100%	A	